

令和7年「市民と議会のわがまちトーク」報告書

福祉健康委員会

開催日時	令和7年4月27日（日）午後10時から午前11時30分まで
開催場所	舞鶴市役所本庁本館4階 議員協議会室等
テーマ	高齢者や障害者を支える人への支援 ～誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるために～
参加市民	25人
出席議員	担当委員会：福祉健康委員会 田畑篤子、小杉悦子、杉島久敏、廣瀬昇、眞下弘明、南正弘 サポート委員会：総務消防委員会 川口孝文、小谷繁雄、小西洋一、西村正之、山本治兵衛 オブザーバー 肝付隆治 議長、野瀬貴則 副議長

内 容

【全体概要】

多様な視点から御意見をいただくため、次のような方々に御参加いただくこととし、事前に高齢者や障害者を支える人への支援に関する資料を送付することにより、一定の御理解をいただいた上で、当日に臨んでいただいた。

- (1) 福祉事業所の職員
- (2) 介護者の会・家族の会の方
- (3) 介護経験者・障害者家族等の方
- (4) テーマに関心を持つ市民（公募）



当日は、高齢者や障害のある方を支えておられる方の負担が増加している現状を踏まえ、その負担を軽減するための方策について、各グループで意見交換をした。

各グループの意見交換の内容は、次のとおり。

【各グループの意見交換の内容】

1 班

担当議員：小杉 悦子

市民参加者人数：5人



【出された課題の主なもの】

- ・ 介護保険制度の施行前だが、介護をして精神的にも身体的にも疲れ果て、死んでしまおうかと考えたこともある。私自身も入院することとなった。とあるケアマネジャーに会って救われた気がした。この経験を活かして、家族会をつくってきた。家族で交流することで救われることもある。
- ・ 障害を持つお子さんは、変化がゆっくりで長期間になる。早期発見と療養が重要であり、かつて自閉症が親の育て方に起因すると誤解されたように、医学的な理解を求める。子どもから大人まで、途切れることのない継続的な支援を希望する。また、地域社会の理解を深めてもらうために、積極的に自治会活動に参加している。
- ・ ケアマネジャーの立場から、支援する人にも課題があることもあり、あれこれしてあげたいと思いはあるが、制度上できない。対象者が、支援が必要となっても利用料の関係もあり、限定されることも心苦しい思い。
- ・ 家族の介護力の低下もあり、地域では介護教室を開く場合がある。以前、介護保険制度の初期の頃、「事業所の車で家まで来てくれるな。」「この地域は大丈夫だからうろろしないでくれ。」と地域の方に言われたことがある。住民の理解が必要だと痛感した。
- ・ 高齢になっても障害があっても、尊厳を持って生きることができる社会の形成や、介護などの仕組みづくりが必要である。できないことに気を取られるのではなく、できることに焦点を当てた支援が必要と考える。
- ・ 改定された舞鶴市高齢者保健福祉計画に、支援者を支援する観点がないことが問題である。介護保険ができた時は「介護の社会化」と言われたが、四半世紀経って、今ではその逆で「家庭にまた返す」ような国の動きとなっている。訪問介護の休止などが増えると、家族の負担がさらに増えることになる。

【課題を解決するために必要な方策】

- ・ 支援者の交流の場が、何といても必要。「私1人ではないんだ」という気づきが、次へのステップとなる。支援者が前を向ける。
- ・ 家族会の安定的な運営が必要である。新規での加入者が少なく、介護OBの方が多くなっている。以前は介護をしている方がバス旅行に行けるようにしてもらったことがある。家族の息抜きの取組が重要である。財政的に支援をしてほしい。
- ・ 多くの市民に、支援者の苦労や大変さを知ってもらうことが大切である。特別なことではなく、支援する人も支援される人も地域の一員としての認識を培うことができる取組が必要である。
- ・ 高齢者・障害児者の法律や制度に、支援者への配慮の観点を入れることが欠かせない。現行制度の充実が、支援者の負担を軽減することになる。

2班

担当議員：杉島 久敏

市民参加者人数：5人

【出された課題の主なもの】

1. 介護人材が不足している。核家族化により、家族間での介護に限界を感じる。
2. 仕事との両立や介護に伴う子どもの預け先の確保が容易ではない。
3. 生活環境（ごみ屋敷化）の改善など、介護業務以外の業務負担が発生している。
4. 介護スタッフの賃金と業務責任のバランスが取れていない。責任過多となっている。



【課題を解決するために必要な人材と支援】

1. 介護者の負担が増えている事実は大きな課題と感ずるところである。しかしながら、介護に対し否定的ではなく、ボランティア精神に基づき、「介護活動に参加したい」との意思を持つ方もおられる事実もある。そうした思いを持っておられる方を市が積極的に取りまとめ、派遣するといった体制を構築されたらどうか。
もちろん介護資格等をお持ちでない方が大多数を占めることになることから、ケアマネジャーと一緒にボランティアでの参加といったところから始まることになるかと思われる。
2. 介護者の人数を一気に増やすことは困難である。それならば、介護現場で活用が期待できるパワースーツなどのロボット導入支援をお願いします。
3. 介護環境を整えるために利用できる保険点数の利用範囲を拡大する。
介護業務以外の範疇とされる要介護者の自宅室内環境の維持に向けた掃除などに対し、時間と労力に見合う保険点数の獲得ができるようにしていただきたい。

3班

担当議員：廣瀬 昇

市民参加者人数：5人

【出された課題の主なもの】

- ・ 舞鶴市が各種計画を定めていることは分かっているが、その支援が自分たちのところまで届いているとの実感がない。
- ・ そもそも、どこに相談したらよいのかが分からない。
- ・ 地域の中で困っていても地域の理解が得づらい。
- ・ マンパワーなど行政側から地域に足を運んで問題解決に力を貸してほしい。
現状は、市役所まで出向いて手続きをしないと役所は動いてくれない。
- ・ 介護をしている側は、精神的にも肉体的にもギリギリのところまで追い込まれている。
- ・ 医療的ケア児の社会的な理解と支援が少ない。
- ・ 障害のある方が高齢化し要介護になっており、ケアがしづらい。
- ・ 行政の担当者が代わるごとに説明をしなければならない。



【課題を解決するために必要な人材と支援】

- ・ 舞鶴市のHPやSNSの発信、自治会などを通じた広報を拡大して、必要な方に必要な情報が届くように市にも努力してほしい。
- ・ 相談窓口についてもどこに行けばよいのか分からない。積極的な広報を行うべきである。
- ・ 困っている方を地域全体で支え合う仕組みが必要である。
そのためには地域全体にも障害をお持ちの方や介護について理解できるような地域住民を対象としたセミナーの開催など理解を得る場が必要である。
- ・ 地域の中で困っている方を見つけるための市が主体となった仕組みづくりが必要である。
- ・ サービス担当者会議の場に薬剤師が参加されていない。
薬によりQOLに影響が出るので、是非とも参加して支えるための助言がほしい。
- ・ 行政の担当者が代わっても質を担保した支援が継続できるように引継ぎをしっかりとしてほしい。

4班

担当議員：眞下 弘明

市民参加者人数：5人

【出された課題の主なもの】

- ・ 介護をされている方の一人の時間に悩みを共有できる人がいない。
- ・ どこに、誰に話したらよいのか分からない。
- ・ 電話をしても担当課が縦割りで説明を二度しないといけなかった。
- ・ 時間がないことから市からいただいた冊子（手引）を読む気力が起きない。



【課題を解決するために必要な人材と支援】

- ・ 相談窓口を一本化し、切れ目のない支援をつくる。
- ・ 相談窓口の担当者のスキルを上げる。
- ・ 市の冊子は、一目で分かるものにする。

5班

担当議員：（委員）南 正弘

市民参加者人数：5人

【出された課題の主なもの】

1. 身体的負担
寝たきりの方の移動
出掛けたいが連れて行く負担が大きい。
2. 精神的負担
自由になる時間が取れない。



3. 仕事との両立
体調を崩すとたちまち仕事に行くことができない。
介護離職
お迎え時間や通院のため仕事を調整をする必要がある。
4. 経済的負担
施設入所の金銭的負担が大きい。
親の年金ではやりくりできない。
5. 将来への不安
自分自身が年を取っていくので、介護がどこまでできるか心配。
この先どうなるのか。介護が一段落した後の燃え尽き症候群が心配である。
6. 制度
医療的ケア者のショートステイの場所が少ない。
家族を支援するサービスが少ない。人・物・金がない。
国の補助（報酬）が少ない。
7. その他
働く職員が少なく、休止事業所が増えつつある。
病院等の福祉車両専門駐車場がない。

【課題を解決するために必要な人材と支援】

1. 身体的負担
辛いときに相談できる窓口を分かりやすくしてもらいたい。
一人で留守番できない人へのレスパイトケアをする。
2. 精神的負担
他の用事があるときに介護支援を依頼できないか。
慣れた支援者が在宅レスパイト移動支援ができたらい。
3. 仕事との両立
介護支援者のフォローアップ
介護離職させないための仕組みづくり
4. 経済的負担
介護保険外のサービスの拡充
介護保険では限界がある。
各種助成額を上げてもらいたい。
5. 将来への不安
福祉人材の呼び戻しを行う。
6. 制度
移動支援事業所をもっと使いやすくする。
身内で代わりがいがないときに代わってもらえる制度をつくる。
自立する年齢（18歳）になったら家族に頼らないサービスが続ける。
（家族ではなく社会でみる。）
7. その他
困ったらAIを活用する。
実際の現場を見てほしい。
京都府はKBSラジオでヤングケアラー支援を放送しているが、残念ながら若い人は聴いていない。
専門医が舞鶴にはいない。

【まとめ】

6の制度の部分が改善できれば、その他の項目も自ずと解決できるように思う。

- 何より介護人材の確保が必要と感じる。そのためには離職者の呼び戻しをする。具体的には手軽にマッチングできるアプリの開発や紙媒体でもよいと思う。
- 制度の改革 → いろんな負担が軽減されると思う。資格が取れやすい制度の構築
- チーム舞鶴（仮称）という介護ネットワークづくり → 市役所が旗を振る
- 国（厚生労働省）の制度で補えないところを舞鶴市で実施していく。

【意見交換の結果の取り扱い方針】

高齢者や障害をお持ちの方を支援している方の課題を再認識し、支援者の負担軽減に向けた意見を共有することができた。出された意見をもとに調査・研究を進め、行政が実施すべき支援や施策などを整理して、市への提言を目指す。